

市民協働による 住みよい まちづくり

市民協働の推進に向け、市民協働推進基本指針と、羅針盤の指す方向へ進めるための市民協働推進実施計画をつくりました。今の特集では取り組み内容や今後の計画についてご紹介いたします。

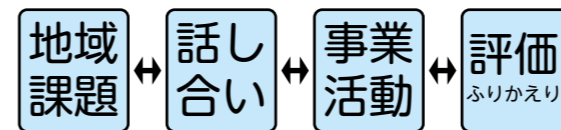
住みよいまちづくり

市 民のライフスタイルや価値観が多様化・複雑化し、市民間のつながりも希薄となるなかで、これからは「一つの組織、団体では対応できない課題」が増えてきます。具体的には、先の震災にもみられるように災害時対応、防災の取組み、子どもの貧困問題、居場所づくりの対応、高齢社会における介護など様々な分野で多様な関わり方が求められています。

そのため「協働」という手法を用いて、市民、自治会、NPO、ボランティア団体、市民団体、企業、教育機関、行政などが、互いに得意とすることを持ち寄って、一緒に取り組むことで、このような地域課題の解決につながります。互いがつながり合い、気軽に連携協働し合う取り組みが広がっていき、住んで良かったと思えるまちを目指していきます。

重要

地域づくりのプロセス



協働にむけての取り組み

地域をつなぐ コーディネーター

市および市社会福祉協議会と協働して「ぎのわん地域づくり塾」の企画・運営をさせていただきます。この塾では「ひとりの困りごと」を「地域の困りごと」として、いろんな人や力、資源をつなぎ合わせて、解決への動きをつくり出す「地域コーディネーター」の育成を目指します。地域の課題を見極め、みんなが話し合い、考え、悩みながら、解決への動きを作り出す力を磨き合います。



NPO法人
まちなか研究所わくわく
宮道 喜一 氏
みやじ きいち

協働 によるまちづくりをすすめるため、初めての取組として「ぎのわん地域づくり塾」が開講しました。地域づくりに思いを持って集まった塾生が、地域づくりの基本的な考え方や必要なスキルなどを身につけ、互いのネットワークを広げ学び合う場となることを目的としています。7月11日には第1回講座を行い、5年前から本市の地域づくりに助言を頂いている高崎経済大学教授の櫻井常矢氏より「ひとを育む地域づくりを進めるために―市民協働の扉をひらく―」と題した講話が行われました。

自治会、企業、NPO・市民団体、協、行政等に関わる73人の参加がありました。櫻井先生のテンポの良い語り口と事例を交えた分かりやすい講話に、会場全体が引き込まれ受講生のやる気に満ちた熱気であふれました。講話では、地域づくりの基本的な考え方(P2参照)、地域づくりをサポートする「地域コーディネーター」の心得など具体的な事例の紹介とともに丁寧な説明がありました。受講者からは「とても心に入ってきた」「ヒントがたくさん得られた」など、講演内容に感銘を受けた熱いコメントや、今後の活動に前向きな感想が多く寄せられました。



つながって、わくわくするまちに

市民協働の羅針盤を策定 ～指針と計画～

平成26年度からの約2年間、さまざまな分野で協働やまちづくりのリーダーシップをとっている委員の皆さんと一緒に熱気のある話し合いを重ね、羅針盤となる市民協働推進基本指針と市民協働推進実施計画をつくりました。

最初に、委員それぞれの思いを話し合ってみると「協働」のイメージがみんな違っておりその認識合わせを丁寧に積み重ねました。時間はかかりましたが「話し合う」という事の大切さを実感しました。そのようにして辿りついた、めざすまちの姿が「誇りと愛着の育まれるまちづくり」の実現～宜野湾市だからこそできる、住んで良かったと思えるまちづくりでした。

また、指針づくりの過程で実施したアンケートの結果から、市民、自治会、市民団体、事業者、

学生など様々なみなさんが地域に愛着をもち、地域活動に関わりたい、または、既に取り組んでいるという「地域づくりの担い手」がたくさんいらっしゃる事が分かりました。このような多種多様な「地域づくりの担い手」が出会い、協働によるまちづくりをすることで、宜野湾市の可能性が広がり、わくわくするまちになっていくのではないかと思います。

この宜野湾市に多様な担い手をつなげる人、話し合う場、生活に根差したまちづくりの取り組みが増えていくためのお手伝いとして、この指針や計画がお役に立てば何よりも嬉しいです。

地域づくりはプロセスが大切！

「ぎのわん地域づくり塾」での講話より

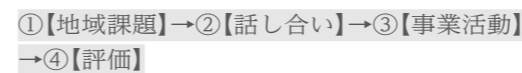
～なぜ今、地域づくりなのか～

近年の地域の暮らしには、高齢化や人口減少、一人暮らし世帯の増加、介護予防、自然災害、子育てなど、地域の力がなければ解決できない課題が増えています。地域の暮らしを支え、地域の課題を解決するために「地域づくり」が求められています。

そして、一つの組織・団体だけでは地域の課題を解決することがますます難しくなるため、よその団体、地域と手をつなぐ「連携・協働」により、構成員だけに閉ざされた自治会や団体活動ではなく、他の知恵や工夫を受け入れる開かれた地域社会が求められます。

～プロセスとしての地域づくり～

地域づくりは、次のプロセスが大切です。



地域で行われるお祭りなどの行事・イベント(③【事業活動】)そのものを目的とするのではなく、そこに至るまでの過程(①②)において、多様な意見を出し合い、その地域にとって本当に重要な地域課題を絞り込んでいくことが大切です。こうした地域づくりの過程には「ひとづくり」の意味もあります。【話し合い】で出された自分の意見が、具体的な地域の課題解決に結びつくとしたら、それはその人自身のさらなるやる気や地域活動のこだわりへと発展するでしょう。

これからの地域社会には丁寧なひとづくりが求められます。すぐに結果を求めるのではなく、試行錯誤をむしろ楽しみながら、根気強い地域づくりをご一緒に進めていきましょう。



宜野湾市市民協働推進協議会
委員長

岩田 直子 氏
いわた なおこ

沖縄国際大学総合文化学
部人間福祉学科教授



高崎経済大学地域政策学
部地域づくり学科 教授

櫻井 常矢 氏
さくらい つねや

教育学博士。専門は社会
教育学・生涯学習・地域づ
くり。
宜野湾市市民協働講座・
研修講師(平成24年度～)